



2022年11月8日 神戸国際大学キリスト教センター通信 第70号

安息の日

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉 哲哉

仕事の条件として給料と同じく大切な「休日」ですが、学生のみなさんと話していると「週休2日は欲しい」などの声を聞くことがあります。「週休2日」を「毎週土・日曜の2日休む」と思っている人が多いようですが、「毎週2日休む」のは「完全週休2日」で、その2日も連続して休めるとは限らず「毎週月・木曜の2日を休む」場合でも「完全週休2日」となります。

「休日は多いほうがいい」という願望もわかるのですが、日本の国民の祝日は1年に16日あり、土・日曜が52日ずつ、お盆が3日と年末年始の休みで5日あれば、ほぼ暦(慣習)通りの休日は128日となり、2.85日に1日は休める計算になります。

一方で海外の休日を調べるとアメリカ13日、フランス11日、イギリス・スイス9日、フィリピン18日など(いずれも振替や臨時の休日がある)で、働き過ぎとされる日本の休日が16日というのは、必ずしも少なくはないかも知れません(目指せ!完全週休2日…)

「安息日」とは旧約聖書:創世記の天地創造の物語にある通り、神が世界を6日間で作って7日目に休んだことによるものですが、キリスト教の一部には安息日の娯楽やスポーツを慎む教派もあるようです。また、より厳格なユダヤ教では安息日には一切の労働をしてはならないとされ、イスラエルでは役所は全て閉庁、交通機関も運休、緊急自動車を除く自動車の運転も禁止です。

辞書によると「安息」とは「何の煩いもなく、くつろいで休むこと。」とありますが、この戒律によると生産的な労働ができないだけでなく、火をつける、調理する、電気製品のスイッチを入れるなどもできません。市民は食事を安息日の前日までに作り置き、エレベーターはボタンを操作しなくて良いよう各階止まりに設定するなど、生活のあらゆる場面にユダヤ教の戒律が行き渡っています。最近では近代化・国際化・世俗化などの影響で、国民の全てがこのような生活を送っているとは限りませんが、それでも多くの人びとが安息日の教えに従っているようです。

さて、忙しい最近の学生は「安息日」をどのように過しているのでしょうか。みなさんは「せっかくの休みだから何かしなくてはもったいない…」、「やっと取れた休日に出かける旅行の予約をどうしよう…」などと煩うことなく休んでいますか。



一口メモ 寛容なカレンダー

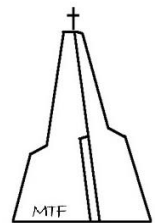
各国の暦を調べると新年・独立記念日・労働者の日・クリスマスなど、多くの国に共通の祝休日の他にも様々な日があり、米国の建国の父 G.ワシントン大統領の日や人種差別と戦った M.L.キング牧師の日などは有名です。

キリスト教の祝祭日としては、クリスマスをはじめ復活日、聖霊降臨日、聖パトリックの日・聖アンデレの日・聖母マリアの日、諸聖徒日/万聖節…などがあります。

興味深いことにはキリスト教徒が多い国にもイスラム教の祝祭日があったり、イスラム教・ヒンドゥー教・ジャイナ教・シーク教・キリスト教・仏教の祝祭日と同じ国の暦に並んでいたりします。カレンダーだけを見ていると、どこの国でもみんな一緒に広い心で仲よく暮らしていきましょうというメッセージのように思えますね。



JETRO のサイト
“世界の休日 へ”



神戸国際大学
キリスト教センター
諸聖徒礼拝堂

ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。
明日を恐れるすべての人々に、
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、
み旨に適う決断へと導かれますように。
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な
子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教
スティーブン・コットレル大主教



A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,
we pray for the people of Ukraine today.
We pray for peace and the laying down of weapons.
We pray for all those who fear for tomorrow,
that your Spirit of comfort would draw near to them.
We pray for those with power over war or peace,
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,
that you would hold and protect them.
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.
Amen.

Archbishop Justin Welby
Archbishop Stephen Cottrell



ウクライナのための祈り (カード) 日本聖公会東京教区のページへ

禁複製転載 (C) St.Michael's KIU_MTF
神戸国際大学キリスト教センター

